

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500214		
法人名	医療法人社団 森生会		
事業所名	グループホーム温もりの家 楓ユニット		
所在地	北海道茅部郡森町字上台町330番地の12		
自己評価作成日	平成26年10月18日	評価結果市町村受理日	平成26年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、当事業所は運営母体が医療機関であり隣接しているため、日頃から入居者様の健康状態について看護師や先生に相談できる環境にあります。また、緊急時には常時担当医と連絡が取れる体制ができています。
 その他、月に二回往診があり健康状態を診て頂いている。
 2、当事業所には常勤の栄養士があり、食事の献立や栄養のバランスを考えた食事を提供している。
 3、当施設周辺は緑が多く春には近くに桜を観に出掛けたり、秋には栗拾いに出かけたり、紅葉を観に出掛けたりと四季の変化を感じて過ごして頂ける環境です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=0191500214-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年11月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム温もりの家は設立から3年となるグループホームである。医療法人が母体であり、隣接する医療機関と先行して設立したグループホーム「もりの家」で培ってきた高齢者支援の実績をもとに、2ユニット18名の利用者の穏やかな日常を支えている。事業所の立地する地区は地域の交流や支えあいを町内会単位でも行っており、独居高齢者への配食サービスによる安否確認事業への協力や、地域での認知症と認知症ケアの啓蒙などを通じて事業所の機能の還元にも取り組んでいる。事業所では簡潔で分かりやすい理念を掲げ、その中に込めた思いを職員とともに実現するため介護技術の向上だけでなく、一人一人の利用者の心に寄り添うケアを目指している。さらに利用者だけでなく、家族の心情にも配慮し、共に利用者を支えることを目指し家族アンケートなど様々な角度から検討を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一部を変更したことにより、分かりやすく職員一人ひとりが認識を高め、実践に繋がられてきている。 他、毎日朝礼で、理念を確認してからケアにあたっている。	「感謝の気持ちと思いやりと笑顔を大切に」を理念とし、事業所に掲示している。施設長から理念に込めた思いを伝え、理念を踏まえたケアが実践できるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際は地域のボランティアさんを招いたり、地域に出掛けたり、町内会の行事にも積極的に参加し、地域との交流に取り組んでいる。	利用者の入居前の生活が継続できるよう、地域との交流を含めて検討している。町内会行事への参加やボランティアの受け入れなどを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の会合に地域の一員として参加し、GHについての説明や認知症について、理解が深められるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事故報告や取り組んでいる具体的な内容を報告し、それについての意見やアドバイスを頂き、サービス向上に活かしている。	2カ月ごとに開催している。家族や行政、地域からの参加を得て事業所の状況を伝え、アドバイスを受けている。今後家族参加を増やすため、日程の工夫などが予定されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、入居状況や事故があった場合等は直接出向き報告したり、ケア会議に参加して情報交換を行う等関係性を築けるよう努めている。	運営推進会議には地域包括支援センターと森町保健福祉課の出席がある。会議を通じて地域高齢者の状況や事業所の状況について情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や勉強会を通して理解を深めながら、入居者様一人ひとりの身体状況や精神状況等を把握し、予測される事態について話し合い、対処方法やケアの方法を検討し支援にあたっている。	身体拘束等に関する外部研修には積極的に参加し、受講後の伝達研修で職員全員が共有できるようにしている。玄関は日中の施錠は行わず、利用者の外出の希望があった場合には職員と一緒に出掛けるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、職員会議等に合わせ、虐待について話し合う機会を作っている。個々の対応等についても小さな事でも都度解決に向けて原因や対策等検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し制度についての理解を学ぶ機会を作れているが、積極的に個々の必要性等について具体的な話し合いは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は契約の前に、重要事項説明を行い、理解、納得して頂いたうえで契約をして頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 面会時に合わせ、ご家族様から意見や要望を聞くように努めている。年に一度程度ご家族様にアンケートを実施し、適宜運営推進会等で報告している	家族の来訪時などには意見等を聞き、運営に活用している。また事業所独自の家族アンケートを実施し率直な気持ちをくみ取るようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体会議等で職員の声を聴く機会を作り反映させていけるよう努めている	毎月ユニットごとの会議と全体会議で職員の意見を聴取する機会がある。その他にも毎年一回、職員の個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議等で職場環境についての意見や要望を聴く機会を作り、活かしていくよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修会に参加できる環境になっている。不定期ではあるが、勉強会を行なう機会も作り、ケアの向上に繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議や、協会の会合等に参加し、情報交換や実状について意見を交わす等機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご本人様と面談し、困っていることや不安を聴く等情報を集め、入居後に活かしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際にご家族様と話し合いの場を設けて、不安や要望等伺う機会を作り、ご家族様との関係性も大切に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には状況や状態の把握と、ご本人様、ご家族様と面談を行い、必要なサービスについて話し合いをしたうえでサービスを提供するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事作業を行ったり、買い物に出掛けたり、ゆっくりお話をしたりご本人様との関わりのある時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時などを利用し普段の様子をお話したり、ご相談させて頂いたり、買い物や外出等を提案する等して繋がりを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある商店で買い物をしたり、食事をしたり、美容室に出掛ける等して、馴染みのある場所や人との関わりを大切にしている。	利用者の行きたいと希望する店への買い物や外食へ出かけている。知人の来訪時にはお茶を勧めゆっくりと過ごしてもらえるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者とおやつ作りをしたり、レクリエーションに参加して頂いたり、お話がしやすいようにセッティングしたり、耳が聞こえにくい方は職員が間に入りお話をする等手伝いさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、関係機関にこれまでのご本人様の生活歴やケアについての情報を提供しスムーズにサービスの継続が図れるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、必ずご本人様、ご家族様から生活歴や意向等を確認させて頂いている。日々の生活の中で気付いたこと等も話し合い検討している。	利用者の希望や悩みを聞き、したいことや、他の利用者との関係を調整している。利用者が生活の張りを持つよう役割を持ち職員と支えあうようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前にご家族様や、関係機関から情報を頂き、これまでの生活を大切に馴染みの暮らしの継続に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に、一人ひとりの心身状態や最近の様子について話し合う機会を作り、決定した内容は周知しケアの統一を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々職員が気づいたことや様子等記録したり、引き継ぎ等で伝えている。定期的に行うケア会議の中で必要なサービス内容等話し合い介護計画に反映させている。モニタリングは二ヶ月ごと実施している	半年ごとに担当職員がアセスメントを行い、健康や身体状況に合わせて計画を作成している。計画のモニタリングは2カ月ごとに実施し、目標の達成状況などについて検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を取り、その日行ったケアや入居者様の様子や状態を記録している。必要に応じて話し合いも行なっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに合わせて外泊支援や、ボランティアさんを活用したり対応策を話し合いながら進めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に出掛ける際は馴染みのあるお店を利用したり、関係機関に用事がある時なるべくご本人様と一緒に外向き繋がりを大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に運営母体である病院が隣接している事を説明したうえでかかりつけ医を決めて頂いている。かかりつけ医やご家族の意向を踏まえ必要に応じて、眼科、皮膚科、泌尿器科を受診して頂いている。	専門医など、利用者が希望する病院への受診に職員が同行している。必要に応じて添書を持参したり、職員と事業所の看護師にも引継ぎを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している看護師が毎日ホームへ来て、入居者様の健康状態をチェックしている。その他にも変化があれば随時連絡し指示をもらっている体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、担当の看護師から経過や様子を聞いたり、ご家族様からも様子について伺っている。退院の際は、担当の先生や看護師から必要な情報を頂きスムーズに生活の継続が図れるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として終末期に向けた指針を入居時に説明し同意書を頂いている。同時にご家族様の意向もお聞きしている。終末期においては、連携機関協力のもと支援できる体制ができている	入居時に事業所の方針を伝え、家族の希望を確認している。隣接する病院への入院が可能となっている。職員も看取りケアの研修を受講し関係機関と協力しながら支援する体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変があった場合のマニュアルを作り、対応について確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防署に協力してもらい防火訓練や避難訓練を行っている。役割分担や連絡体制を整えている。町内会にも協力して頂き実施している。	年二回の避難訓練には地域や同法人の施設からの参加があり、夜間を想定して行っている。ダムが近いため、火災だけでなく水害なども想定してリスクに備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇について研修会に参加したり、声かけや接する姿勢について定期的に話し合いを行う機会を作り支援に活かしている	利用者のできることできないことをアセスメントし、失敗しないようさりげない支援を行い自信をもちながら生活できるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメント等で得られた情報を基に日々の様子観察等で気付いたことを職員間で共有し、個々に応じた支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で起床時間や食事の時間、入浴時間は個人のペースに応じている。特に施設の日課を決めておらず、個々の状態や生活のリズムを尊重するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の身体状況や生活歴等の情報を参考にして支援に繋げている。希望に応じて、洋服を買いに行ったり、美容室を利用して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや食器洗い、下膳をお願いする等して頂いている。日々の食事では好みに応じた提供が難しいので、行事等を機会に好きな食事をして頂いている。馴染みのある音楽をBGMに取り入れている	利用者が食べたいものをメニューに取り入れている。事業所で収穫した旬の野菜や利用者と粟を取りに行き食卓に上ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量は管理表を作成しチェックしている。一人ひとりの状態を把握し、タイミングや好みを把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。声かけや確認のみの方、ガーゼを使用する方等個々の状態に応じた支援を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表で排泄パターンを把握している。声掛けが必要な方、尿意のサインを出される方等、個々の状態に応じて個別に支援を行なっている。	利用者のサインを見極めタイミングよくトイレへの誘導を行っている。日中は布パンツを使用しトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の形態を工夫したり、好みに応じて、野菜ジュースやヨーグルトを勧めている。体操やレクを提供し運動の機会も取り入れ支援を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回入浴日を設けている。一人で入りたい方、仲の良い方と入りたい方等に合わせたり時間帯は特に決めず、なるべくご本様のタイミングで入って頂いている。	午前と午後の時間帯から利用者の希望で実施している。個別対応だが、広い浴室があり、希望に合わせて仲の良い同士でゆったりと湯船につかりリラックスできるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々に合わせて活動や休息の時間をメリハリのある生活を心掛け、精神的安定を図り、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の内容は全員分をファイルして各自で確認できるようにしている。お薬の変更があれば、連絡ノートに記入し確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や散歩、個々に応じて縫い物や洗濯物干し等役割を持って頂いている。嗜好品に関しては自室で好きなお菓子類や飲み物を保管している方もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物で掛けたり施設の回りを散歩し木々やお花を楽しんで頂いている。普段行けない所は行事を利用している。希望があればお墓参りに出掛ける等も対応している。	事業所周辺は豊かな自然があり、のんびりと散歩を楽しむことができる。事業所の畑や外気浴も行っている。日常的話題の中から利用者の出かけた場所を聞き外出行事等で訪れるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご本人様で管理している方もいらっしゃいますし、買い物の際はご本人様に代金等の支払い等も行えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いた際は電話をつないだり、その方の能力に応じお返事を書いたり、電話を掛けたり、ご家族様とのつながりを大切に支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暑い時には、ホールや自室で扇風機を使用したり、生活音にも気を付けて業務にあたっている。玄関やテーブル、廊下に花を飾り明るい印象の空間を提供している。	明るい日差しの差し込む居間にはソファと食卓テーブルがあり、思い思いの場所で寛くことができる。コーヒーなど自分の好きな飲み物を自由に楽しめるようにしている。浴室も広く、安全に入浴できるように浴槽に入るためのステップなどを活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	散歩の途中に休めるよう廊下の途中にはソファを置いたり、ホールにもソファを用意しているので仲の良い方同士よくお話しをされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使用している、身の回りの物等持ってきて頂いたり、自室には写真を飾ったり仏壇や私物のタンスを置いている方もいらっしゃいます。	居室は床暖房になっており、ベッドやクローゼット、冷蔵庫、床頭台、テレビなどがある。使い慣れた家具や仏壇などを持ち込んでいる。地震の際の転倒防止の措置を行い安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりの能力や状態を見極め、支援にあたることで、ご本人様の負担や不安を軽減し能力を發揮した生活の支援に努めている。		